

分析結果報告書[9]共通試料2(土壌試料(溶出試験):一般項目等)
分析方法等(ふっ素)

ふっ素

- の色が付いた回答欄に選択肢番号ご記入ください。
の色が付いた回答欄に自由回答をご記入ください。
の色が付いた回答欄に数値をご記入ください。
○ のような図形で選択肢を囲んでも結果には反映されません。

例: 1. 1未満 2. 1以上2未満 3. 2以上5未満 4. 5以上10未満 5. 10以上

分析主担当者

↓ 回答欄

経験年数(年)		1. 1未満 2. 1以上2未満 3. 2以上5未満 4. 5以上10未満 5. 10以上
実績(年間の分析試料数)		1. 50未満 2. 50以上100未満 3. 100以上200未満 4. 200以上500未満 5. 500以上
分析(主)担当者以外の分析結果の確認		1. あり 2. なし

分析方法等

分析開始日		2023/○/○○の形でご記入ください
分析終了日		2023/○/○○の形でご記入ください
分析方法		1. ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光度法 2. イオンクロマトグラフ法 3. 流れ分析法 4. その他
4. その他(右のセルにご記入ください)		

検液の保存状況

保存方法 注)		1. 冷蔵所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
保存温度(℃)		1. 4未満 2. 4以上5未満 3. 5以上6未満 4. 6以上10未満 5. 10以上

注) 冷蔵保存、冷凍保存は冷蔵所保存に含む

蒸留操作(蒸留操作は必須:流れ分析法中の経路によるものは含めない)

検液分取量(mL)		mL
蒸留装置の種類		1. 通常の蒸留装置 2. 小型蒸留装置
小型蒸留装置使用時の回収率(%)		%
濃縮		1. 行う 2. 行わない
蒸留容器の温調方法		1. 温度計とヒーターのサーモスタットによる方法 2. 2重蒸留管を用い、外側に沸点 146℃の 1,1,2,2-テトラクロロエタンを入れる方法 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
使用した酸		1. 過塩素酸 2. 硫酸 3. 過塩素酸及びリン酸 4. 硫酸及びリン酸 5. その他
5. その他(右のセルにご記入ください)		
過塩素酸または硫酸は白煙を出したものを 使用したか		1. はい 2. いいえ
吸収液		1. 水 2. 水酸化ナトリウム溶液 3. 界面活性剤 4. その他
4. その他(右のセルにご記入ください)		
留出液の中和		1. 行う 2. 行わない
留出液の定容量(mL)		mL

ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光度法

前記蒸留操作		1. 行う 2. 行わない
留出液分取量(mL)		mL
ランタン-アリザリンコンプレキソン溶液		1. 酸化ランタン-アリザレンコンプレキソン等により調製 2. 市販のアルフツソン等により調製 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
測定波長(nm)		1. 620 2. その他
2. その他		nm

イオンクロマトグラフ法

前記蒸留操作		1. 行う 2. 行わない
留出液の希釈倍率		倍(希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。)
試料注入量(μL)		μL(希釈後の試料の注入量を記入する。)
イオンクロマトグラフメーカー		1. サーモフィッシャー・サイエンティフィック 2. 島津製作所 3. 東ソー 4. メトロム 5. 日本分光 6. その他
6. その他(右のセルにご記入ください)		
区分		1. 電気的サブレッサー(電気透析型) 2. 電気的サブレッサー(電解型) 3. 化学的 サブレッサー 4. ノンサブレッサー 5. ゲル式サブレッサー 6. その他
6. その他(右のセルにご記入ください)		
再生液(サブレッサー用)		1. 使用しない 2. 使用する(硫酸溶液) 3. 使用する(溶離液) 4. 使用する(水) 5. 使用する(リン酸溶液) 6. 使用する(その他)
6. その他(右のセルにご記入ください)		
検出器		1. 電気伝導度 2. 分光度(紫外/可視部吸収検出器含む) 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
移動相		1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナ トリウム溶液 4. p-ヒドロキシ安息香酸(+ビス-トリス等)溶液 5. その他
5. その他(右のセルにご記入ください)		
流量(mL/min)		1. 0.5未満 2. 0.5以上1未満 3. 1以上1.5未満 4. 1.5以上2未満 5. 2以上
カラム温度(℃)		1. 30未満 2. 30以上35未満 3. 35以上40未満 4. 40以上45未満 5. 45以上

流れ分析法

前記蒸留操作		1. 行う 2. 流れ分析装置内で行う 3. 行わない
留出液の希釈倍率		倍(希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。)
試料注入量(mL)		mL(希釈後の試料の注入量を記入する。)
測定方法		1. ランタン-アリザリンコンプレキソンFIA法 2. 蒸留・ランタン-アリザリンコンプレキソン発色CFA法 3. その他
3. その他(右のセルにご記入ください)		
装置のメーカー		1. ビーエルテック 2. その他
2. その他(右のセルにご記入ください)		
測定波長(nm)		1. 620 2. その他
2. その他		nm

標準液

標準物質・標準原液-メーカー名		1. 富士フイルム和光純薬 2. 関東化学 3. その他 4. 自社調製
3. その他(右のセルにご記入ください)		
使用時の濃度保証		1. 保証期間内 2. 保証期間超過
ファクター		
Lot番号		

定量方法・下限値等

定量方法		1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
検量線作成点数		1. 4未満 2. 4以上6以下 3. 7以上9以下 4. 10以上
検量線作成範囲:最小		
検量線作成範囲:最大		
検量線単位		1. µg 2. mg/L
検量線最高濃度応答値		(吸光度、信号強度等。複数測定の場合は平均値)
空試験応答値		(同上、標準添加法では記入しない。)
試料応答値 1回目		(同上)
試料応答値 2回目		(同上)
試料応答値 3回目		(同上)
分析法検出下限値(MDL) (mg/L)		mg/L (試料中の濃度を示す)

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
計算式	ふっ素濃度(mg/L)＝